

令和5年度（第62回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

●のうじくみあいほうじん農事組合法人 ふくさと福の里 やまぐちけんあぶぐんあぶちょう〔山口県阿武郡阿武町〕（代表理事 いちかわのりよし 組合長 市河 憲良）

（1）むらづくりの背景・動機

平成13年に「長沢の池」の漏水修復による断水で、3年間約40haが水稻作付不可能となり大豆栽培に取り組んだことに始まる。その後平成14年に、福田上・福田中地区5集落が共同で大型機械を導入、機械利用と共同作業を行った。このことをきっかけに法人化の検討を行い、15年に「農事組合法人 福の里」を設立した。設立を契機に、地域住民を加えた「福の里農地見守り隊」による農地の保全管理、女性部を中心とした加工所の運営、直売所の開設、イベントの開催による交流促進や農福連携など、にぎわいの創出によるむらづくりを進めてきた。

（2）むらづくりの内容

① 生産面における取組状況

（農）福の里は、大型機械導入や地域内で農地集積を行うことで生産の効率化を図っている。水稻、大豆、野菜、薬用作物を栽培しており、主食用米の「コシヒカリ」で化学肥料・化学農薬を5割低減したエコやまぐち農産物認証に取り組んでいる。また、酒米や業務用米、飼料用米、もち米を生産している。近年冬場の余剰労力利用として薬用作物の栽培に挑戦している。

地域住民と連携した農地保全活動や地域高齢者の農業生産への積極的な活動のほか、労力確保として近隣施設との農福連携、次代を担う新規就業者の確保に取り組んでいる。JGAP認証を取得し、経営体質強化に向けて努力している。

② 生活改善の取組状況

平成17年に（農）福の里に、女性の視点を生かして地域を盛り上げる目的で女性部を設立した。野菜栽培、農作物加工販売、生活環境改善に取り組んでいる。また、女性部は住民参加型の地域づくりに向け、子供や高齢者も含めて集落点検活動を行い、夢マップを作成した。

平成18年に建設した加工場と直売所では、女性部が中心となって、餅・おこわ・柏餅・お菓子などの農産加工品開発と販売も行っている。加工場及び直売所が建設されたことをきっかけに、きれいな環境づくりのため国道沿いの花壇管理も実施している。

直売所のオープニングをきっかけに、（農）福の里が中心となって地域住民や農家等と連携し、春祭り、特産品スイカ祭り、南水祭り（梨）などイベントを実施し、地域のにぎわいを創出している。